

# 中部整備局の総合評価

総合評価落札方式における予定価格帯別実施結果

予定価格区分	全体件数	2005年度		2006年度		2007年度			
		最低額応札者以外の落札件数	比率(%)	全体件数	最低額応札者以外の落札件数	比率(%)	全体件数	最低額応札者以外の落札件数	比率(%)
7.2億円以上	20	4	20.0	24	12	50.0	26	19	73.1
3億円以上 ～7.2億円未満	47	5	10.6	74	20	27.0	68	26	38.2
2億円以上 ～3億円未満	79	5	6.3	138	15	10.9	206	25	12.1
2億円未満	107	9	8.4	677	38	5.6	955	63	6.6
総合評価 全体件数	253	23	9.1	913	85	9.3	1,255	133	10.6

# 07年度実施率 大規模、5割で逆転 93%

## 大規模、5割で逆転

中部地方整備局は、昨年度に実施した総合評価落札方式の実施結果を公表した。実施件数は、発注件数の93%に当たる1,255件。このうち、最低額応札者以外の落札件数は133件で逆転率は10・6%だった。また、予定価格帯別の逆転率をみると、3億円以上の工事は5割近くで逆転がみられたものの、3億円未満では1割に満たず、加算点が小さい小規模工事では逆転が起こりにくい状況が顕著に現れた。

19日開かれた総合評価審査委員会第一部会で、同局が報告した。総合評価落札方式の実施件数は05年度は253件（実施率18%）だったが、06年度は913件（同70%）と大幅に増え、07年度は1,255件（同93%）と発注案件の大半が実施された。総合評価のタイプ別でみた07年度の実施件数と逆転件数は、▽高度技術提案型12件中0件▽標

準型1,150件中48件（逆転率32%）▽請負型1,103件中85件（逆転率7・7%）。標準型のうち、技術を重視する方式として昨年度だけ試行した技術型（最大50点加算）では逆転率が41・7%と高かった。また、簡易型のうち地域要件を重視する地域型の逆転率は6・1%で、簡易型の平均より1・6㌽低かった。

一方、予定価格帯別でみると、▽7億2,000万円以上1,26件中19件（逆転率73・1%）▽3億円以上7億2,000万円未満1,68件中26件（逆転率38・2%）▽2億円以上3億円未満1,206件中25件（逆転率12・1%）

5件中63件（逆転率6・6%）となり、加算点が大きい大型工事ほど逆転が多い。また、05年度以降の推移をみると、2件で、平均落札率は41・23%（工事全体の平均落

5件中63件（逆転率6・6%）▽2億円未満1,95件中63件（逆転率6・6%）となり、加算点が大きい大型工事ほど逆転が多い。また、05年度以降の推移をみると、2件で、平均落札率は41・23%（工事全体の平均落

率が年々増加しているのに対し、2億円未満の工事は逆に減少している。施している施工体制確認の実施件数は73件。低

入札調査に該当したのは18件で、このうち実際に落札に至ったのは1件のみ。また、特別重点調査の対象となる2億円以上の工事2,388件のうち特別重点調査の対象となつたのは4件だったが、いずれも契約には至っていない。

20年 5月 21日

建設工業新聞